

第6章

みやぎの人物 People



- 仙台藩初代藩主 伊達政宗に関する日本一あれこれ
- 志賀潔は赤痢菌を発見し文化勲章を受章、初の仙台市名誉市民に!
- KS鋼を発明した本多光太郎は“鉄の神様”と呼ばれ第1回の文化勲章受章!
- 「荒城の月」の作詞者 土井晩翠は詩人では初めて文化勲章を受章した
- 日本最初の近代的国語辞典「言海」は大槻文彦により編纂された
- 吉野作造は民本主義を提唱「大正デモクラシーの旗手」と呼ばれた
- 「わらじ村長」鎌田三之助は、品井沼干拓や村の建て直しを達成した村長
- 玉蟲左太夫は「世界一周の日記」を記録した人物である
- 後藤桃水は、全国初の民謡大会を開き、「民謡」を世に広めた
- 仙台は『光通信発祥の地』として広く知られている
- 日本人で初めて世界一周をしたのは宮城の船乗りだった!
- 漫画の作品数770作品は世界一!ギネス記録の萬画家・石ノ森章太郎

仙台藩初代藩主 伊達政宗に関する 日本一あれこれ

みやぎの人物

日本一

仙台藩

伊達政宗画像



仙台市博物館所蔵

伊達政宗騎馬像



仙台城本丸跡

伊達政宗霊廟



瑞鳳殿（霊屋経ヶ峯）

伊達政宗に関する日本一！

- 1 伊達政宗が造営した「[大崎八幡宮](#)」は現存する最古の権現造りの建物である。
- 2 NHK 大河ドラマ独眼竜政宗の「[年間平均視聴率](#)」は歴代第1位である。

伊達政宗に関するあれこれ

- 3 「桃山様式」を伝える建造物が多く見られる都市、仙台・松島・塩竈など。
- 4 伊達政宗の自筆書状は1,000通を超え、戦国武将の中でも多い。
- 5 伊達家は、8種類の家紋を持つ。
- 6 伊達政宗は文武両道に長けた戦国武将であると言われている。
- 7 伊達政宗はファッション力に優れた戦国武将！
- 8 伊達政宗の墓室の発掘調査は、本格的に実施された。
- 9 「政宗が育んだ“伊達”な文化」が2016年（平成28年）、日本遺産に認定された。

伊達政宗 プロフィール（年齢は数え年）

- 誕生：永禄10年8月3日
- 父：輝宗、母：義姫
- 幼名：梵天丸
- 妻：愛姫（田村家）
- 元服：天正5年（11歳）
- 初陣：天正9年（15歳）
- 家督相続：天正12年（18歳）
- 死去：寛永13年5月24日（70歳）

これを知っていると「政宗通」に!

- ① 伊達政宗が造営した『大崎八幡宮』は現存最古の権現造りである。

大崎八幡宮(仙台総鎮守 国宝)



大崎八幡宮は、1604年(慶長9年)～1607年(慶長12年)にかけ造営され、その様式は入母屋造りの本殿と拝殿とを繋いだ石の間造りであり、後に「権現造り」と言われる建築様式である。

安土桃山時代の文化を今に伝える**わが国最古の権現造りの建造物**で、**昭和27年に国宝に指定**された。仙台総鎮守の1つでもある。

- ② NHK 大河ドラマ「独眼竜政宗」の年間平均視聴率39.7%はいまだ破られず

昭和62年の流行語「梵天丸もかくありたい」

1987年(昭和62)にNHK大河ドラマ第25作として放送され、数ある大河ドラマの中でも、**歴代第1位の平均視聴率39.7%**を誇る。2014年にNHK BSで年間再放送。

伊達家の子孫が監修しており、**初めて歴史上の人物の子孫が監修**する役目を担った。

- ③ 「桃山様式」を伝える建造物が多く見られる都市、仙台・塩竈・松島

宮城県内の桃山様式建築物()は建立年(再建含む)

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| ○瑞鳳殿(1637年(寛永14年)) | ○大崎八幡宮(1607年(慶長12年)) |
| ○瑞巖寺(1609年(慶長14年)) | ○五大堂(1604年(慶長9年)) |
| ○鹽竈神社(1607年(慶長12年)) | ○陸奥国分寺薬師堂(1607年(慶長12年)) など |

- ④ 伊達政宗の書状の数と自筆書状(「筆まめ武将」)

仙台市史資料編に収録された政宗の手紙類3,352点のうち、筆跡の判明する1,811点を精査したところ、**自筆と判定されるのは1,260点で70%を占める**。信長が3通、秀吉が130通、家康が約30通という自筆書状の数と比べて極めて多い。

⑤ 伊達家は8種類の家紋を持つ

1. **三引両**(初代朝宗が源頼朝より拝領したという)
2. **竹に雀**(上杉家からの譲られた)
3. **九曜紋**(政宗が細川家に所望したという)
4. **桐紋**(秀吉から政宗が拝領と伝える)
5. **菊紋**(秀吉から政宗が拝領と伝える)
6. **雪薄紋**(伊達家特有)
7. **牡丹紋**(1680年(延宝8年)に伊達綱村が近衛家に申し出る)
8. **蟹牡丹紋**(7の改良)

⑥ 伊達政宗の文武両道

- **武将**：23歳で南奥羽の覇者となる。大坂の陣参戦
- **文化人**：漢詩、和歌、書、能、狂歌、茶道、香道などの豊かな教養を持つ

⑦ 伊達政宗のファッション力

- **黒漆五枚胴具足、弦月の前立**
- **山形文様陣羽織**



山形文様陣羽織
(仙台市博物館蔵)



黒漆五枚胴具足
(仙台市博物館蔵)

⑧ 伊達政宗の墓室の発掘調査は、本格的に実施された

1637年(寛永14年)に造営された霊屋(墓所)は、1945年(昭和20年)の戦災で焼失したが、1979年(昭和54年)に再建された。その際、墓室発掘され、遺骸・副葬品などの調査が詳細に行われたため、等身大の復元と副葬品を見ることができる。

⑨ 「政宗が育んだ“伊達”な文化」が2016年(平成28年)、日本遺産に認定された

政宗は伊達家で育まれた伝統的な文化を土台に、上方の桃山文化の影響を受けた豪華絢爛さなど、これまでにない新しい“伊達”な文化を確立した。そして、その文化は政宗にとどまらず、後の藩主や宮城に暮らす人々の生活に定着し、成熟・発展を遂げてきた。

仙台市、塩竈市、多賀城市、松島町に広がる51の文化財で構成される。

志賀潔は赤痢菌を発見し 文化勲章を受章、初の仙台市名誉市民に!

みやぎの人物

世界初

仙台市

研究者 志賀潔



志賀潔の墓を清掃
北山ガイドボランティア



志賀潔・新説明板設置

医学に生涯を奉げ、大きな功績 全世界を救う「赤痢菌」の発見

1896年(明治29年)帝国大学医科大学(現東京大学医学部)を卒業した志賀潔は「伝染病研究所」に入所し、北里柴三郎博士に師事した。研究を始めた年の6月、関東を中心に再び赤痢の患者が増え、流行の兆しが現われ、菌の特定と治療法を確立するために、北里先生は志賀にその研究を指示した。

この日から研究室に泊まり込み、研究に没頭し、ついに1897年(明治30年) **「赤痢菌」を発見**し、このニュースは全世界に広がった。著書「続 私の信条」(岩波新書)の中で、**「微生物の世界の探求でも、私はただ顕微鏡や実験動物を相手にしているだけで満足だった。私の科学する心はそれだけで満ち足りていたのである」**と医学に真摯に向き合う研究者の姿があった。

志賀潔 プロフィール

赤痢菌発見者 享年87歳 墓地:輪王寺

仙台藩の大番士の家で出生、幼名は直吉。1875年(明治8年)母親の実家の志賀家の養子になった。第一高等中学校(現在の仙台第一高等学校)を経て、1892年(明治25年)に帝国大学医科大学(東京帝国大学医学部)に入学した。晩年は山元町に移り、太平洋の波と松風の音を聞き、磯浜海岸の散策を楽しんだ。

文化勲章を受章、第1回仙台市名誉市民

1944年(昭和19年)に文化勲章受章、1949年(昭和24年)には、本多光太郎、土井晩翠とともに仙台名誉市民になった。資福寺の平和観音碑に、晩翠の友情の言葉が刻まれている。

KS鋼を発明した本多光太郎は “鉄の神様”と呼ばれ第1回の文化勲章受章！

みやぎの人物

日本初

仙台市

本多光太郎 記念碑



東北大学金属材料研究所
本多記念館前



文化勲章受章時
(昭和12年)
東北大学史料館提供

略 歴

1870年～1954年(享年83歳)
愛知県生まれ
物理学者、金属工学者(冶金学)
明治30年 東大卒、物理学・材料工学
明治44年 東北帝国大学理科大学開設 教授
大正5年 K S鋼を発明
昭和6年 東北帝大第6代総長就任(3期9年)
昭和9年 新K S鋼を発明
昭和12年 第1回の文化勲章受賞

「鉄の神様」と呼ばれ、金属学に多大な功績を残した本多光太郎

東北大学100年の中で、きら星のように飛び出した優れた研究者たちの中でも、本多の存在は群を抜いて輝く。当時世界最強の磁石「KS鋼」「新KS鋼」を開発した。

1937年(昭和12年)に第1回文化勲章を受章し、1951年(昭和26年)には文化功労者に選ばれた。本多光太郎の特徴として以下のような事が言われている。

- 実験と実学に取り組み、1日に何度も研究室に足を運んだ。
- 「どうだ、あーん」と、学生らに言葉をかけ、実験の進行状況を尋ねた。
- 象牙の塔に閉じこもらず、現在で言う「産学連携」「大学ベンチャー」の先駆け
- 獨創性を大事にし、世の中の役に立つことを目指した「産業武士道」精神

本多光太郎旧宅

米ヶ袋の静かな住宅地に本多光太郎の旧邸宅があり、「本多会館」として保存されている。本多会館は総木造で、現在は、東北大学の職員集会所としても利用されている。広瀬川に続く広い庭には、秋になると真っ赤な曼珠沙華が咲き誇り、一角にある展示室には、本多光太郎の遺品や資料が展示されている。



本多光太郎氏旧宅
[米ヶ袋(仙台市青葉区)]

「荒城の月」の作詞者 ^{ど い ばん す い} 土井晩翠は 詩人では初めて文化勲章を受章した

みやぎの人物

日本初

仙台市

土井晩翠

略 歴



仙台城址の晩翠胸像と荒城の月碑

1871年～1952年(享年80歳)
明治4年 宮城県仙台市生まれ
明治27年 東京帝国大学英文科進学
明治32年 第一詩集「天地有情」出版
明治33年 母校の第二高等学校教授
明治34年 「中学唱歌」に「荒城の月」掲載
昭和24年 仙台市名誉市民に推される
昭和25年 文化勲章受章
昭和27年 仙台城址に「荒城の月」詩碑

仙台市北鍛冶町（青葉区木町通）に生まれ、幼少の頃より父親の影響で漢学で親しむ一方、英語学者の斎藤秀三郎の仙台英語学校に通う。23歳で東京帝国大学英文科に進み、在学中に「帝国文学」の編集委員として、誌上に次々と作品を発表。

島崎藤村とともに、日本近代詩に「晩藤時代」と称される大きな足跡を残した。1901年（明治34年）「中学唱歌」に掲載された「**荒城の月**」（作曲は滝廉太郎）は、**日本を代表する歌曲**として広く知られている。

1900年（明治33年）、母校の仙台第二高等学校の英語の教授として仙台に帰り、以後、海外留学の一時期を除き、仙台の地で教鞭をとるとともに、著作に励み生涯を送った。1949年（昭和24年）仙台市は初の名誉市民の称号を贈り、**1950年（昭和25年）詩人として初の文化勲章を受章した。**

晩翠忌

毎年10月19日の晩翠の命日に晩翠忌が行われる。仙台城址「荒城の月」詩碑前で行われる記念行事で、「荒城の月」の合唱を披露する。小学生の合唱は、晩翠先生ゆかりの**木町通小学校**、**立町小学校**、**片平丁小学校**が輪番で行い、市民や城址を訪れた人々も一緒に歌う。

どい、つちい どちらが正しいの

正解はどちらも正しい。1937年（昭和12年）の年賀状に「先般から、ツチイをドイと改音いたしました。」とあるとおり、当初は「ツチイ」で、後に「ドイ」と名乗っていた。

日本最初の近代的国語辞典「言海」は 大槻文彦により編纂された

みやぎの人物

日本初

仙台藩

大槻三賢人像(一ノ関駅前)



胸像(仙台第一高等学校)



日本で最初の本格的な国語辞書 言海(げんかい)

江戸から明治に変わる頃、日本語あるいは国語という言葉は西洋を意識したがために生まれ、当時、国語辞書の編さんは緊急の課題で、国家的事業であった。当時、宮城師範学校の校長をしていた文彦に白羽の矢が立ち、**日本語辞書の編さんは大槻文彦ほぼ一人の力によって成し遂げられた。**着手から完成まで実に16年を要し、1891年(明治24年)「言海」四冊を自費出版した。「言海」の奥書に「**遂げずばやまじ**」という祖父の遺誠がある。

“**事業というものはいい加減な気持ちで始めてはならない。決断した以上はやり遂げるまでは絶対やめないという精神がなければならない**”と語る。

大槻文彦 プロフィール

(1847年～1928年 享年80歳)日本の国語学者 仙台藩士

儒学者大槻盤溪の三男として江戸に生まれる。祖父に大槻玄沢がいる。鳥羽伏見の戦いに参戦、戊辰戦争後、奥羽越列藩同盟を提唱した父・盤溪の助命運動に奔走。宮城師範学校の校長も務め、仙台にゆかりが深いが、祖父の生地一関を故里と慕った。

言海 完成祝賀会

1891年、大槻の仙台藩時代の先輩にあたる富田鐵之助が、芝公園の紅葉館で主催した『言海』完成祝賀会には、内閣総理大臣・伊藤博文をはじめ、山田顕義、榎本武揚、谷干城、勝海舟等が出席した。大槻家と親交のある福澤諭吉も招待されたが、伊藤博文の尾につくのは嫌だと言って、辞退したという逸話がある。

吉野作造は民本主義を提唱 「大正デモクラシーの旗手」と呼ばれた

みやぎの人物

国内唯一

大崎市

吉野作造



吉野作造肖像（1920年代）（吉野作造記念館提供）

宮城県庁18階の「県政広報展示室」の「自由民権運動と大正デモクラシー」のコーナーには、写真入りの記事が掲載されている。

吉野作造記念館



吉野作造記念館標識の前には、**「民本の鐘」**がある



吉野作造は、31歳で東京帝国大学助教授になり、1年後に3年間の海外留学（独英米）に出発。帰国後、**民本主義**（主権在民の意味ではなく、主権の運用は民衆の利益のために行うものとし、民意を反映させるための政党内閣制、普通選挙制の実現を主張）を提唱、藩閥権力を批判した。

この理論が、政治・社会・文化の各方面における従来の諸制度、諸思想の改革を促すことになり、民主主義社会実現のために行動した実践的活動家でもあった。よって、彼は**大正デモクラシーの旗手、立役者**と呼ばれている。



吉野作造 プロフィール(1878年～1933年 享年55歳)

吉野作造は、現在の大崎市古川に糸綿商の長男として誕生。14歳で仙台の尋常中学校に進み、第二高等学校に入学後、キリスト教と出会い、20歳で洗礼を受ける。36歳で東京帝国大学教授に就任。この行動する学者の活動内容、多彩な交友関係については、吉野作造記念館で確認できる。



鈴木文治との交流

鈴木尋常中学時代（現古川高校）の下宿先が、吉野の友人宅だった。そこで旧制第二高生の吉野が古川帰省時に友人宅で鈴木も交えて語らい、7歳年下の鈴木宛に、クリスチャンとして洗礼を受けたことや、抱負等を綴った手紙も残っている。このように、二人は生涯を通じた友人、共闘する仲間となっていた。

「わらじ村長」鎌田三之助は、 品井沼干拓や村の建て直しを達成した村長

みやぎの人物

日本一級

大崎市

晩年の鎌田三之助
(1863年～1950年 享年87歳)



(鎌田記念ホール提供)

略 歴

- 志田郡木間塚村(現大崎市鹿島台)出身。
- 仙台藩に関わる地主の家柄。江戸時代からの悲願であった品井沼干拓に尽力。1910年に排水トンネル「明治潜穴」を完成、品井沼を水田に変えた。
- 水害や政争で疲弊し県下一貧乏とされた鹿島台村村長に1909年(明治42)3月、46歳で就任、以降10期38年間、1946年(昭和21)まで務める。
- 質素儉約に努め、つぎはぎの服、わらじで全国行脚したことで、「わらじ村長」と言われた。

自ら率先して財政立て直しに尽力

品井沼干拓と村の財政建て直しを悲願として村長となった鎌田三之助は、**在任期間10期38もの間、村長としての労力相当報酬や旅費実費等の報酬を受け取っていなかった。**また、戦後の選挙制度を含めても、**村長の在任期間は日本一級である。**

鎌田三之助は、村の財政を立て直すために、自ら率先して粗食、質素、儉約に努めた。

江戸時代からの悲願、品井沼干拓を達成



明治潜穴 穴頭

四代仙台藩主・伊達綱村(1659～1719)の時代に始まる品井沼干拓は、鎌田三之助が村長に就任した翌年、1910年(明治43年)の排水トンネル「明治潜穴」の通水式が大きな区切りとなった。三之助は、1911年(明治44年)5月の竣工祝賀会に祖父・玄光、父・三治の位牌を持って参列、落涙しながら舟で明治潜穴を通過し、親子三代に渡る悲願達成を喜んだ。

この後、品井沼は、排水と開墾が進み、昭和15～16年頃には沼はほぼ消滅し、水田整備への基盤ができあがった。

たまむし さ だ ゆ う

玉蟲左太夫は日本で初めて 「世界一周の日記」を記録した人物である

みやぎの人物

日本初

仙台藩

玉蟲左太夫肖像画



(仙台市博物館所蔵)

1823年～1869年
(享年47歳)
仙台藩士
遣米使節団の従者
養賢堂指南統取
列藩同盟軍事務局副頭取

世界一周を記録した「航米日記」
こうべいにちろく



航米日記は全8巻。秘書を除いた7巻が仙台藩主へ献上されたという。(仙台市博物館所蔵)

「世界一周の日記」を記録した玉蟲左太夫

1861年(文久元年)、日本で初めて「**世界一周日記**」**「航米日記」**が仙台藩主へ献上された。著者は仙台藩士、玉蟲左太夫である。

左太夫は、江戸幕府が派遣した遣米使節団の一員として、今から約160年前の1860年(万延元年)にアメリカへ渡り、帰路は大西洋を航海して、約10ヶ月にわたる世界一周の旅に行った。『航米日記』は、その旅で体験した異国の景色や風物、日本人と外国人との違いなどが詳細に記録されており、歴史的にも価値の高い資料である。

他にも、北海道・樺太を調査して「**入北記**」を著している。

また、明治維新の際に会津藩との調停役を務め、仙台藩を代表して奥羽越列藩同盟の結成に尽力するも、同盟軍が敗れると、戦争の責任者の一人として切腹を命じられ、47歳で生涯を閉じた。

アメリカ大統領は“入れ札”で決まるという共和制をつぶさに観察

アメリカ訪問の中で、大統領の選ばれ方、議会、法律、宗教、風俗、食事などあらゆるものに興味を示し、その特徴と感想を記述している。例えば、「男女の関係は男を下とし女を上とする(レディーファースト)、一夫一婦制で妾を養うことはない。年齢が15歳になってから淑女を尋ね求めて縁を結ぶ」と観察眼が鋭い。

参考：玉蟲左太夫・山本三郎著「仙台藩士幕末世界一周—玉蟲左太夫外遊録」荒蝦夷(2010)、小田基(著)「玉虫左太夫『航米日記』を読む—日本最初の世界一周日記」東北大学出版会(2010)

後藤桃水は、全国初の民謡大会を開き、 「民謡」を世に広めた

みやぎの人物

発祥の地

宮城県

秋の山唄発祥の地碑(涌谷町)



えんころ節石碑(亶理町)



※被災後、別の場所に保管中

県内で歌い継がれている多くの民謡

野蒜村(現東松島市)出身の民謡研究家である後藤桃水は、1920年(大正9年)東京で全国民謡大会を開催するなど、「日本民謡の父」と言われた。

- **大漁唄い込み** 後藤桃水が、大正から昭和にかけて、他の唄とともに「大漁唄い込み」としてまとめ、全国的に有名になった。
- **お立ち酒** **大和町宮床**が発祥の地で、婚礼には欠かせない唄。
- **秋の山唄** **涌谷町**が発祥の地で、当地で農作業しながら歌われたものを、後藤桃水が編曲し、「秋の山唄」として全国に広めた。
- **夏の山唄** **登米市米山**が発祥の地で、農村に伝わる朝草刈の仕事唄、毎年、全国大会が開催されている。
- **菱取り唄** **鹿島台地方**が発祥の地で、かつてこの地方には「品井沼」という大きな沼があり、「菱」が群生していた。
- **えんころ節** **亶理町**が発祥の地で、新しく舟を作った際の「船おろし(進水式)」の祝唄として歌われていた七五調の曲で、48種類の歌詞がある。

すりあげほら

摺上原の凱歌という説が有力だが各地にもある

さんさ時雨

さんさ時雨は、仙台藩領の岩手県南、山形県置賜、福島県北部でも歌われている。「元々は上方で流行したものを伊達政宗軍が自己流に覚えて帰り、仙台で流行った模倣の文化」と言われている。よく聞くと、「色っぽい恋歌」で言葉も艶っぽく、婚礼の際の祝儀歌として歌われる。

仙台は『光通信発祥の地』として 広く知られている

みやぎの人物

発祥の地

仙台市

案内板(五橋交差点近く)



西澤潤一(名誉県民)



光通信発祥の地 石碑



東北大学電気通信研究所内

1964年(昭和39年)東北大学の電気通信研究所内で、西澤潤一教授(当時)によって**世界で初めて光ファイバーによる通信が発明**された。片平キャンパスの電気通信研究所前には、その偉業を讃えた碑「**光通信発祥の地**」が建っている。西澤氏は、「**ミスター半導体**」あるいは「**光通信の父**」などと称され、1989年(平成元年)に**文化勲章を受章**された。2000年(平成12年)には西澤氏の業績を記念して、米国電気電子学会(IEEE)のエジソン・メダルを受賞した。2002年(平成14年)には、IEEEの世界で最も権威のある賞「**ジュンイチ・ニシザワ・メダル**」が創設された。

西澤潤一(1926-2018):東北大学工学部、電子工学・通信工学、独創的な業績多数

光通信とは

光通信は、電気信号を光信号に変換する「**送信器**」と逆に光信号を電気信号に変換する「**受信器**」、光を運ぶ路「**光ファイバー**」で構成される。光通信のメリットは伝達距離が長く、省エネで経済的、一度に多くの情報を送ることができる、通信速度が速いことなどである。



ミスター半導体! 光通信の父

電気通信研究所時代に開発した主なもの

- PINダイオードの開発
- 静電誘導型(SIT)トランジスタの開発
- 静電誘導サイリスタの開発
- イオン注入法の開発
- 半導体材料の完全結晶育成法の開発
- アバランシェフォトダイオードの開発
- 半導体レーザーの発明
- 高輝度発光ダイオード(赤・緑)開発
- **光ファイバーの発明**

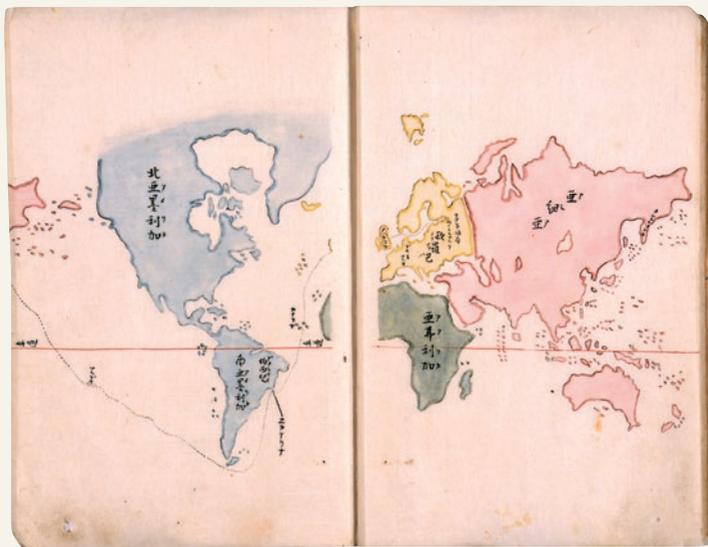
日本人で初めて世界一周をしたのは 宮城の船乗りだった！

みやぎの人物

日本初

塩竈市

世界一周



1793年(寛政5年)~1804年(文化元年)の11年間、津太夫、左平(共に塩竈市寒風沢出身)、儀兵衛、多十郎(共に東松島市室浜出身)の4人は、ロシアに漂流し、**日本で初めて世界一周**をして帰還した。

1793年(寛政5年)11月、千石船の「若宮丸」は、仙台藩の米1,300俵と材木400本を積み込み、乗組員16人で江戸に向けて石巻を出港した。途中、暴風雨で遭難し、帆柱も失って太平洋を漂流した若宮丸は、半年後の1794年(寛政6年)5月、アリューシャン列島の小島に漂着した。先住民族のアリュート人やロシア人の保護を受けて、アリューシャン列島のウナラスカ島で1年間を過ごした後、半年間をかけてシベリア最大の都市イルクーツクへ到着し、ここで7年間を過ごす結果となった。ロシア皇帝アレクサンドル一世が即位すると、日本との貿易を本格的に進めたい思いから、彼らを首都ペテルブルグまで呼び出した。1803年(享和3年)5月、アレクサンドル一世と謁見した10人(これまでに6人が病死していた)は、帰国の意志を聞かれ、津太夫ら4人が帰国を希望し、他の6人はキリスト教の洗礼を受け、ロシアに残ることを選択した。10人は、ペテルブルグでは大変な歓迎を受け、気球、芝居小屋、プラネタリウムなどを見学している。



気球



芝居小屋

1803年(享和3年)6月、4人を乗せたロシアの軍艦ナジェージュダ号は、ペテルブルグを出発し、デンマーク、イギリス、ブラジル、タヒチ、ハワイを経由して、一旦カムチャツカ半島のペトロハバロフスクに寄港した後、1804年(文化元年)9月、ようやく長崎港に到着した。4人は、石巻を出港してから11年ぶりに日本に戻ってきたことになる。



ナジェージュダ号



環海異聞(宮城県図書館所蔵)

当時の日本は、まだ鎖国が続いていたため、幕府は通商を希望するロシアの申し入れを全て断り、1805年(文化2年)3月にロシア使節は4人を残しロシアへ向け出発した。この時、4人はようやく日本に上陸でき、長崎で幕府の聞き取りを受けた後、江戸の仙台下屋敷に移った。九代藩主伊達周宗に長年の苦勞をねぎらわれた後、高名な学者であった**大槻玄沢**と**志村弘強**に見聞きしてきたことを話し、それが「**環海異聞**」という本にまとめられた。この本は、海外の様子を知る貴重な資料として、たくさんの写本が作られた。

1806年(文化3年)2月、津太夫と左平が寒風沢に、儀兵衛と多十郎が室浜に戻った。室浜に戻った二人は同年亡くなったが、寒風沢の津太夫は1814年(文化11年)に70歳で、左平は1829年(文政12年)に67歳で亡くなるまで、平穏に暮らした。

漫画の作品数770作品は世界一！

ギネス記録の萬画家・石ノ森章太郎

みやぎの人物

世界一

石巻市・登米市

仮面ライダー



サイボーグ009



2008年(平成20年)、石ノ森章太郎が「1人の著者が描いたコミックの出版作品数が世界で最も多い」として、「ギネス世界記録」に認定された。対象となったのは500巻で、770作品12万8千ページに及ぶ「石ノ森章太郎萬画大全集」。それまでの記録だった漫画の神様・手塚治虫の400巻550作品15万ページを抜いての認定であった。

手塚は長編漫画が多く、一方、石ノ森は短編や中編が多かったため、ページ数では手塚を下回るものの、作品数で凌駕していた。ギネスの認定証には「known as “The King of Manga”」とあり、石ノ森章太郎はまさに「漫画の王様」であった。



石ノ森章太郎 プロフィール

よみ:いしのもり しょうたろう

本名:小野寺章太郎(1938年(昭和13年)~1998(平成10年))

- 登米郡石森町(現登米市中田町石森)出身。
- 1954年(昭和29年)、高校在学中「二級天使」でデビュー
- 代表作は「サイボーグ009」「ジュン」「佐武と市捕物控」「HOTEL」「がんばれ!!ロボコン」「さるとびエッチちゃん」「マンガ日本経済入門」など。
- 「仮面ライダー」「人造人間キカイダー」「変身忍者 嵐」など、特撮ヒーロー作品の原作者でもある。



「スーパー戦隊」シリーズと「仮面ライダー」シリーズ

石ノ森は1975年（昭和50年）に始まったスーパー戦隊シリーズの第1作目「秘密戦隊ゴレンジャー」の原作を手がけた。その後、スーパー戦隊シリーズは現在も放映されており、今では、海外でも放映されるなど高い評価を得ている。また、1971年（昭和46年）に始まった特撮ヒーローの雄「仮面ライダー」シリーズは、平成に入ってから制作されたものだけでも2018年（平成30年）までに20作品にのぼり、**同じ原作者のシリーズ番組としてはギネス級の作品数**である。



同じ漫画家に関わる施設が同じ県に2カ所あるのは全国的にも珍しい

石ノ森章太郎に関わる施設は、宮城県内に「石ノ森章太郎ふるさと記念館」（登米市）と「石ノ森萬画館」（石巻市中瀬）の2ヶ所がある。

石ノ森章太郎ふるさと記念館（登米市） 生家でも迎えてくれるヒーロー達！



2000年（平成12年）、石ノ森章太郎の生家の側に開館。彼の生涯や作品等が紹介されている。若い頃に入居していたトキワ荘時代の部屋の再現や愛用品などを展示、ビデオシアター等で彼の世界を体感することもできる。そばにある生家も見学が可能で、数々の名作を生んだ彼の原点に触れられる。

石ノ森萬画館（石巻市中瀬） 街おこしで中瀬のシンボルに！



1995年（平成7年）、石ノ森と石巻市長との対談で「学生時代石巻市の映画館に自転車で3時間かけて映画を見に来ていた」との逸話から、石巻市の“漫画での街おこし”の気運が高まり、映画館の隣の敷地に2001年（平成13年）に開館した。東日本大震災の津波で休館を余儀なくされたが、復興のシンボルにとの願いから1年8カ月後に再開された。